

| 第1回 阪南市総合計画審議会議事録   |  | 作成日：平成28年7月4日  |  |
|---|--|--|--|
| 議 題   | 第1回 阪南市総合計画審議会   |  |  |
| 日 時   | 平成28年7月4日（月曜日） 16時00分～18時00分   |  |  |
| 場 所   | 防災コミュニティセンター1階 研修室3  |  |  |
| 出席者   | 委員   | 石橋 進<br>大浦 由美<br>河端 隆志<br>川平 眞善<br>木田 満男<br>坂口 久美<br>嶋津 克彦<br>高嶋 宏至<br>田中 雅之<br>中川 一行<br>萩野 哲也<br>久 隆浩<br>日野 輝一<br>平戸 幸男<br>福井 康夫<br>南 武雄<br>宮城 奈美枝<br>安田 誠宏 | 阪南市農業委員会<br>和歌山大学 観光学部観光学科教授<br>関西大学大学院 人間健康学部教授<br>大阪府 政策企画部企画室計画課長<br>市民（公募）<br>阪南市連合婦人会<br>阪南市商工会<br>市民（公募）<br>阪南市自治連合会 副会長<br>阪南市スポーツ推進委員協議会 会長<br>阪南はなやか観光協会 事務局長<br>近畿大学 総合社会学部教授<br>市民（公募）<br>市民（公募）<br>市民（公募）<br>阪南市社会福祉協議会 副会長<br>市民（公募）<br>関西大学 環境都市工学部都市システム工学科准教授<br>福山市長、安田副市長、岩本参与兼総務部長、中総務部理事<br>井上室長、布施室長代理、高倉主幹、太田総括主事、新垣主事 |
| 議事項目  | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 開会</li> <li>2. 市長挨拶</li> <li>3. 委員紹介</li> <li>4. 会長、副会長の選出</li> <li>5. 諮問</li> <li>6. 議事 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 総合計画後期基本計画策定方針及びスケジュールについて</li> <li>(2) 基礎調査等の報告について <ul style="list-style-type: none"> <li>・総合計画前期基本計画の総括</li> <li>・住民意識調査等</li> </ul> </li> <li>(3) 阪南市総合計画後期基本計画（素案）について</li> <li>(4) 意見交換</li> <li>(5) その他</li> </ol> </li> <li>7. 閉会</li> </ol> |  |  |
| 会議資料  | <ol style="list-style-type: none"> <li>① 資料1 阪南市総合計画後期基本計画策定方針</li> <li>② 資料2 阪南市総合計画審議会の概要</li> <li>③ 資料3-1 前期基本計画の総括資料</li> <li>④ 資料3-2 平成27年度阪南市外部評価委員会報告書</li> <li>⑤ 資料4-1 阪南市人口ビジョン及び総合戦略策定に係るアンケート報告書</li> <li>⑥ 資料5 総合計画後期基本計画 施策体系図（案）</li> <li>⑦ 資料6 阪南市総合計画後期基本計画（素案）</li> <li>⑧ 参考 総合計画後期基本計画 策定経過</li> </ol>   |  |  |
| 議 事 内 容   |  |  |  |
| <ol style="list-style-type: none"> <li>1. プログラムの説明 <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局より本日のプログラム説明を行った。</li> </ul> </li> <li>2. 市長より挨拶 <ul style="list-style-type: none"> <li>・本市行政にご協力いただき、お礼申し上げます。</li> <li>・H24年3月に、将来の都市像を「ともにさかそう笑顔とお互いさまのまち阪南」と定めた総合計画前期計</li> </ul> </li> </ol> |  |  |  |

画を策定し、その実現に向け施策を展開している。

- ・市民病院への指定管理者制度の導入、義務教育施設の小中学校の整理統合や、複合施設おざき出会い館の整備等を実施した。
- ・都市経営の健全化を維持するため、公共施設等総合管理計画を策定した。
- ・認定こども園の整備を推進し、その拠点として総合こども館の整備に職員一丸となり取り組む。
- ・市民が健康で幸せに暮らせるよう SWC に取り組むことにより、健幸都市オンリーワン施策を展開する。
- ・前期計画を推進してきたが、公共交通基本計画の策定や、シティプロモーションの推進などの課題が残されている。
- ・持続可能な阪南市をつくっていくため、委員の皆様には活発な意見交換をお願いしたい。

### 3. 委員紹介

- ・事務局より、委員紹介を行った。
- ・自治基本条例に基づき、審議会および会議録は公開となっている。会議の様子はホームページなどで公開させていただく。(事務局)

### 4. 会長、副会長の選出

- ・久教授を推薦する。(委員)
- ・異議がないため、久教授を会長に決定させていただく。(事務局)
- ・審議会条例により、副会長は会長が任命することとなっている。(事務局)
- ・副会長は下村教授にお願いしたい。(会長)
- ・異議がないため、副会長は下村教授に決定させていただく。(事務局)

#### 会長あいさつ

- ・後期基本計画の策定に尽力したい。また、審議会では基本計画レベルの議論になると思うが、前期基本計画の評価を受けながら、積み残した課題をクリアしていきたい。

### 5. 諮問

- ・市長から会長へ後期基本計画について諮問を行った。

### 6. 議事(1)から(3)

- ・事務局より、資料1,2に基づき、(1)総合計画後期基本計画策定方針及びスケジュールについて説明を行った。
- ・今の説明に対して質問や意見はないか。(会長)
- ・無いようなので、引き続きの議事について、事務局より説明願う。
- ・事務局より、3-1、3-2、4-1に基づき、(2)基礎調査等の報告について説明を行った。
- ・先ほど説明を受けたものによって、基本計画の素案が作られているので(3)の議事の説明の後、(2)の議事と併せて意見交換をお願いする。
- ・事務局より、資料5,6に基づき、(3)阪南市総合計画後期基本計画(素案)について説明を行った。
- ・第2回審議会については素案に対する審議、第3回については案の審議となっていることから、全体を通しての意見交換をしたい。本格的な議論は次回以降になると考えている。(会長)
- ・31頁、健康づくりの推進について、健幸マイスターや食生活改善推進委員の記載のほか、健幸ポイントプロジェクトに携わっているスポーツ推進委員に関する記述も追記していただきたい。(委員)
- スポーツも健康づくりの一環であることから、スポーツと保健を連動させた記載をしていただきたい。(会長)
- ・資料3、施策の進捗状況の経年変化について施策のめざす姿に近づいているものは8割弱である。また、資料3-2に関しては「施策のめざす姿にやや近づいている」としているものは10項目のうち7項目に対して、「施策のめざす姿に近づいている」としているものは3項目であり、外部評価と内部評価の結果が逆になっているように感じる。実際にはどうなのかといった事が1点。  
10項目しか評価できていないので、他は問題なければよいが、後期基本計画に盛られる事になるため、きっちりとされていないと、この素案をベースに議論するのはいかがか、といったことが1点。  
39頁の要介護認定率は前期計画では現状・目標とも17.3%であったが、後期計画では現状18.6%、目標24.8%となっており、数値の悪化や指標の抜けているものが多々見受けられる。前回の目標設定から5年が経過し、どの程度達成しているのか不明であるため、このような状態で議論するのはいかがなものか。(委員)
- 前期基本計画のなかで指標の設定をしたものについては、全てについて現状がどのように変化しているのかわかるような一覧を示していただきたい。(会長)
- 出来るだけ早急にまとめる。ご指摘いただいた指標については資料3-2にあるように、そもそも施策評価

に適さないといった指摘を受けたことを踏まえ、後期計画で修正したところである。(事務局)

- ・資料 3-2 の外部評価委員の指摘を受け修正しているものと考え、現在の指標では施策のめざす姿に関してめざす姿が追いかけていないものと考え。違った観点で施策のめざす姿を追いかけることのできる指標を見つけていく必要がある。(会長)
  - ・施策のめざす姿と指標があっているのか再検討をお願いしたいところもあるので、各委員においては、関心のある施策や専門領域などにおいて、確認をしていただき、代替りの指標などの提案をいただきたい。(会長)
  - ・施策のめざす姿と指標があっていないため、見直しをお願いしたい。代替りの指標の提案もお願いしたい。(会長)
  - ・アウトプット指標、アウトカム指標とあるが、施策のめざす姿を追いかける指標となっているのかなどを確認いただきたい。(会長)
  - ・61 頁では施策のめざす姿が 3 つあるが、指標が 1 つであるため、めざす姿を追いかけていないのではないか。(会長)
  - ・73 頁の国際化の推進について、多言語化が国際化につながるのか疑問。人口減少にあたり、市の賑わいや産業が衰退してくるなかで、交流人口の拡大を図り、賑わいを取り戻すことが必要であると理解している。(委員)
  - ・具体的にインバウンドや、他市からの人口をどのように取り入れるのかが見えない。(委員)
  - ・他市でも実施している姉妹都市構想などもっているのかが、大きなファクターとなってくるものと考え。(委員)
  - ・83 頁の観光の振興について、どのようなビジョンなのか、具体的にどの程度の人数を何人呼び込むのか、どのようなカウントにするのかといった KPI が必要だと感じる。(委員)
  - ・99 頁の魅力的な街並みづくりについて、観光協会の認識では、観光客にその街を楽しんでいただくだけでなく、さらに食事や宿泊をしていただいて、一定のお金を落としてもらわないと意味がないと理解している。(委員)
  - ・本市にはホテルがないので、将来的なビジョンの中で、そのような施設の誘致や、自然環境を活かしたグランピングを実施していくなど、ビジョンとして練っていくことが必要だと考える。(委員)
  - ・103 頁の安全で快適な交通環境づくりについて、観光客が尾崎駅に来たとしても、その後の観光する手段がないことから、2 次交通としてどのような動線で観光するのか、サイクリングなどといった発想など、お客様に来てもらえるような着地整備なども全体的な構想の中で必要だと考える。(委員)
  - ・5 年前からインバウンドの状況が大きく変わってきており、関西空港に来るお客様の数パーセントでも呼び込めるような設えにしたいと考えている。(委員)
- 71 頁の歴史・文化の保存と継承についても、もっと観光に活用できると考えている。  
観光といった観点から、既に有する資源をどのように活用していくのか、ホテルや交通機関といった観光の基盤整備をターゲットとし、全ての項目をチェックすると、もっと充実させることが出来ることも可能であると考え。(会長)
- ・前期計画よりも項目や目標設定をしており、課題のあぶり出しとしては良いのだが、重複を避けた縦割りに感じる。効率的な行政運営のためには、一つの施策をすれば、幾つもの課題を解決できるのは理想であると考え、前回の総合計画の中では施策連携の視点といった項目があり、めざすべき姿というのを、一つ一つの施策からだけではなく、連携した将来像を考えているため、良いなと感じた。(委員)
  - ・子育て、ふるさと、賑わい、出会い、生きがいなどは基本的なことだと思うが、もう少しブレイクダウンし、それぞれのめざすべき所について、関連する施策を意識できるものになるとより良いと感じる。観光や街づくりの視点からも足りないものが見えてくるものもあるので、施策連携の視点のブラッシュアップも必要と感じる。(委員)
- 基本計画レベルでの反映が出来ないか、それぞれの施策に関連する施策を挙げ、それぞれを意識してもらうなど、また、総合戦略と総合計画後期基本計画の関係性を整理し、次回に示していただくとわかりやすい。(会長)
- ・平成 24 年度の当初予算 160 億円が平成 28 年度は 195 億円となり約 22% 増えている。予算が増えるのは構わないが、安定的な市税と地方交付税は増えていない状況。問題なのは少子高齢化に加え、人口減少している中で、市民税の税収が減少傾向にあるといったこと、高齢化によって費用がかかるといったこと。もう一点として、国庫支出金、府支出金が非常に増加していることに関し、財政的にどうなのか、コスト削減等、人を減らせばいいというわけではないが、そのあたりの項目がない。市債では平成 27 年から平成 28 年で大幅に増えている、また、経常収支比率は大阪府内で上から 10 番目くらいに悪い状況である。経常収支比率が 99.8% では、今後、少子高齢化や人口減少といった施策を展開できるのか、具体的なコスト削減や、予算配分などのメリハリなどを記載していただければと感じた。(委員)
- 115 頁の持続可能な財政運営が今の指摘にあたる。そこにもう少し具体的な内容や、イメージできるものを記載すれば、よりわかりやすくなる。(会長)

- 経常収支比率が高いことに関しては、今後も超高齢者社会のなかで社会保障経費が伸びていくことが考えられる。特に基礎自治体の場合には、その部分がかかなりの負担であることから、その事を表す指標として経常収支比率を一つの目標に挙げていると思う。大阪府においても社会保障経費が伸び、かなりの負担である。地方創生で新規事業を実施する場合、国の新たな推進交付金を活用して事業をするといったことが、主な新規事業の取り扱いとなる。市としても同じような状況で、削減できる部分がない中で、国の交付金を活用していくといったことが実情としてあると思う。(委員)
- 全ての施策に対して委員の指摘を念頭におきながら実施していく事になると考える。市民の役割等もしっかりと記載してもらうことも必要だと感じる。(会長)
- ・資料2において、8月までが素案であり、9月では案といった形になっているが、素案と案のステージはどのように変わり、どのように議論すればよいのか。素案で出ているものを議論すればよいのか、または、案にはいると別の項目が出てくるのか。(委員)
- 素案については本日諮問させていただいた。案については11月を予定しているパブリックコメントにける内容のイメージ。案の内容については、本日ははじめとして、2回目、3回目の会議において、委員指摘事項をブラッシュアップしたものを4回目の会議にて提示する。4回目の議論を経て修正したものを案として取り扱うことを考えている。(事務局)
- 2回目は素案に基づき議論し、3回目は1回目、2回目の意見を踏まえた形で修正したものが案としてでてくるのか、または、素案に基づいて3回目も議論し、1回目から3回目の内容を4回目で修正したものが出てくるのか。素案と案とでは何が変わるのか、具体的に教えていただきたい。(会長)
- 資料が誤りであり、3回目も素案である。(事務局)
- 1回目から3回目まで素案に基づいて議論し、4回目でそれまでの意見を集約した案といった形で、パブリックコメント案として示し、チェックするといった手順となる。(会長)
- ・法人市民税がたばこ税の税収よりも低いと聞き、阪南市の事業者で利益を出しているところが少ないと感じた。地域の活性化は事業所が中心となって進めていかなければと感じる。今後も高齢化社会が進む中、後継者不足や廃業する事業者が増えており、その事を重要な問題と捉え、若手後継者や、市外から阪南市で起業したい事業者を招くなど、まちづくりや、ひとづくりを課題として本会議を通じて提案していきたい。(委員)
  - ・資料3-1の人口推移において計画値とあるが、人口が減少することに対して計画といった表現はいかがか、推計値などに置き換えるほうが適切であると考え。(委員)
  - ・資料3-1の施策の進捗状況の経年変化のグラフと、資料3-2の外部評価の評価結果とでは達成率について大きな差がある。市役所内部に内部評価と外部評価の結果を示し、達成率の差について理解してもらっても良いのでは。(委員)
  - ・資料4-1アンケート報告書の自由記述について、市民の方が問題視している項目で同じ内容の記述のものが多かった。アンケートに記述される方にとっては強い思いをもっているものと感じるので、後期基本計画ではそのような事が対応できているのか洗い出した方が良いのではと感じる。(委員)
  - ・また、資料4-1では自由記述意見に対して、該当する政策分野を示しており、自由記述からはまちづくりに関する課題を読み込める部分もあったが、基本計画の素案ではそれらに触れていないように感じる。1,000人以上のアンケート結果があるなかで、複数の回答があった項目などに対しては、基本計画の何番がその自由記述に対応しているのかなどの対応表があればよい。自由記述を集約し、それに対してどのめざす姿がマッチしているのかを示していただきたい。(委員)
- 自由記述は集計しづらい部分もあるが、大まかな傾向がでてくるので、集計のうえ指摘のあったようなチェックができれば。(会長)
- ・先ほどの国際化の推進の中でインバウンド施策や、観光の話などあったが、次回の会議までに観光協会と意見交換などしてみてもどうか。(委員)
  - ・市として捉えている課題や出来ていない部分を今後実施していくことは重要であるが、地方創生の考え方として、地域の強みや資源がどこにあるのかなどを掘り下げて考え、そこをどのように伸ばしていくかといったことも大事。アンケート結果に住みやすいといったことや、定住傾向が強いといったポジティブ意見がでていたので、それがどのような部分で感じているのか、自由記述から拾い上げ、伸ばすべき部分など、阪南市の個性を伸ばすといった方策も必要であると考え。(委員)
  - ・全体を通して課題を書き直しているのは良いが、めざす姿で受けるのか、市役所の役割や、市民の役割で受けるのか、課題に対して何をするのが記載しきれていない。特に、書き改めた課題、書き足した課題に対して、本当に受け止められているのか再度チェックしていただきたい。(会長)
  - ・阪南市より少し規模の大きい摂津市はあまり市の特徴がなく阪南市とよく似ている。摂津まるごとプロジェクトといったNPOでは、What's SETTSU?!からThat's SETTSU!!といったキャッチコピーがあり、これが摂津だ、といわせる摂津市にしたいというのがこのプロジェクトのポイント。資源はそれほどないが、イベントをどんどん実施することで、素敵な人がたくさんいるといったような、人やイベントを資源とするといった発想で摂津まるごとプロジェクトが動き始めた。

市民が面白いことをいろいろやっていただければ、阪南のブランド力ももっと上がるのではないかと考える。次回以降、市民の役割の中で既に実施している事なども踏まえて意見を持ち寄っていただきたい。事務局から見えていない市民の役割で記載できるところもあると考える。(会長)

#### その他

- ・ 次回の開催は8月9日(火) 10:00から防災コミュニティセンター1F 研修室3で開催する。(事務局)
- ・ 3回目以降の日時、場所についても資料として渡している。(事務局)
- ・ 追加資料など欲しい場合は事務局まで連絡していただきたい。(会長)
- ・ その他、委員より進行の話や、今後に向けての要望等はないか。(会長)
- ・ 協働社会の形成の中で、施策のめざす姿を記載しているが、現在進めている総合こども館の計画では市民の不安が募ってきている。今後、市としてどのように対処するのか、次回の会議において市の姿勢について取り上げていただきたい。(委員)
- ・ 事務局としてどのように認識し、どのように進めていくのかといった観点でお願いします。(会長)

—以上—